

救急・救助



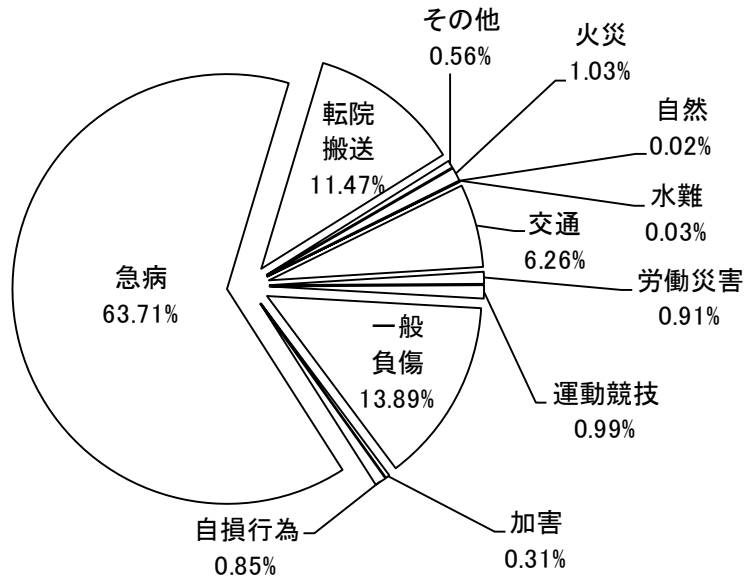
II 救急概況

(平成30年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

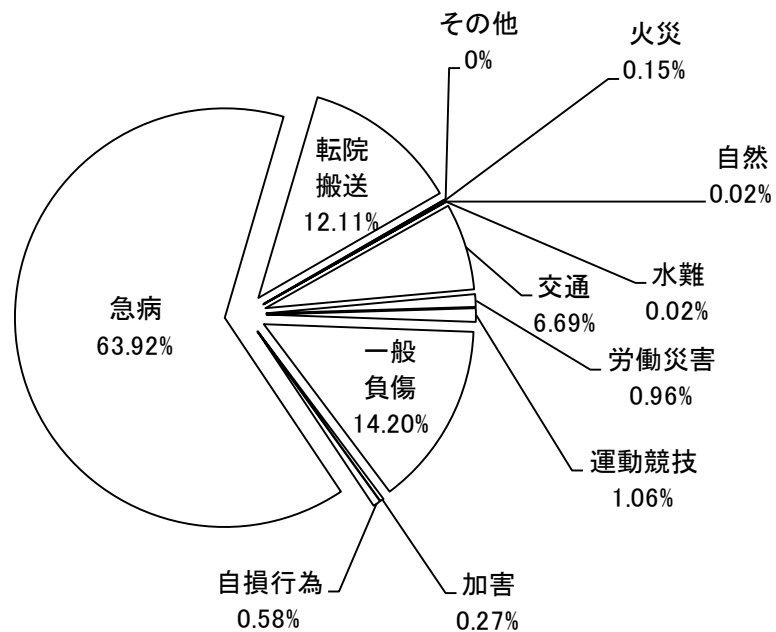
平成30年中の救急出動件数は、前年に比べて741件増加の11,702件、搬送人員は683人増加の10,988人で、件数、人員ともに過去最多となりました。(図II-1、II-2、II-3参照)

図II-1 事故種別救急出動状況



事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	120	2	3	732	107	116	1,625	36	99	7,455	1,342	65	11,702

図II-2 事故種別救急搬送状況



事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	17	2	2	735	106	117	1,560	30	64	7,024	1,331	0	10,988

図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移

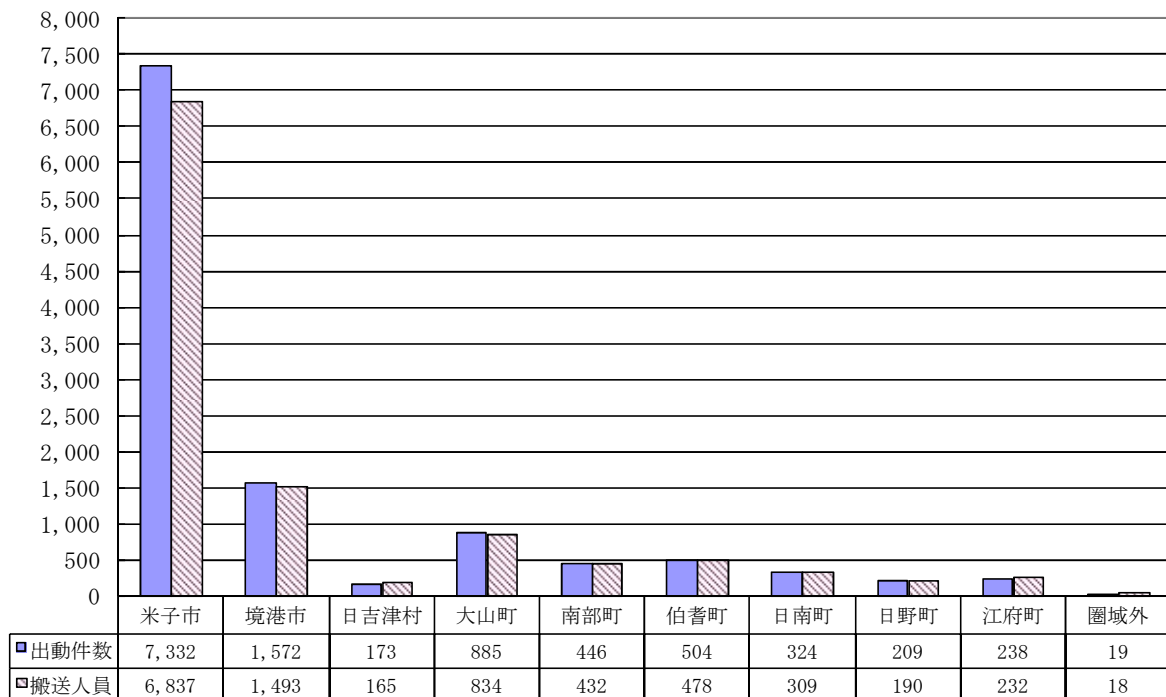


2 市町村別救急活動状況

平成30年中、救急件数が増加した市町村は米子市619件、境港市71件、大山町43件、南部町52件となりました。日吉津村、伯耆町、江府町、日南町は、僅かながら救急件数の減少が認められました。

(図Ⅱ-4 参照)

図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

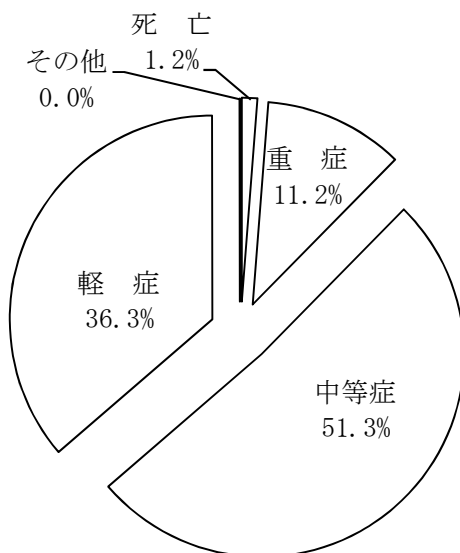


3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が5,637人(51.3%)で最も多く、次いで軽症が3,988人(36.3%)となっています。

(図Ⅱ-5参照)

図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



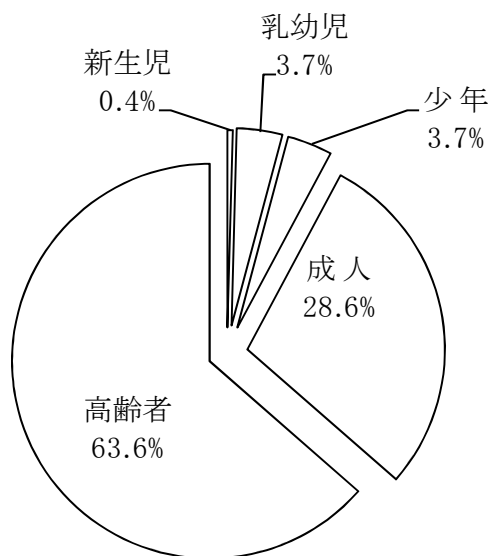
程 度	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	そ の 他	合 計
搬送人員	134	1,226	5,637	3,988	3	10,988

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が6,983人(63.6%)と最も多くなっています。

(図Ⅱ-6参照)

図Ⅱ-6 年齢別搬送状況



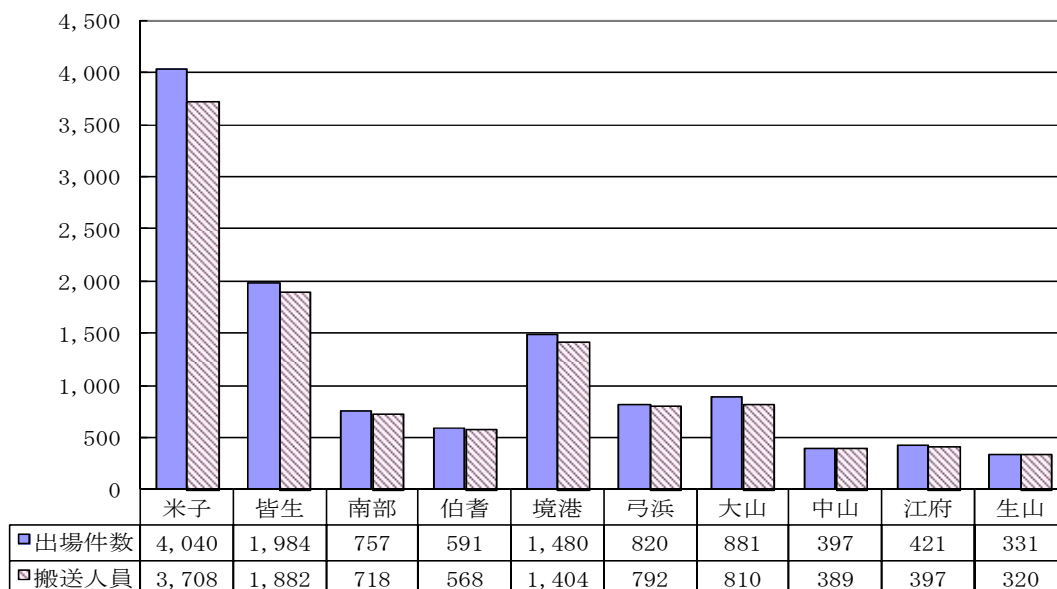
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
搬送人員	47	409	403	3,146	6,983	10,988

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ4,040件(34.5%)、3,708人(33.7%)と最も多くなっています。

(図Ⅱ-7参照)

図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



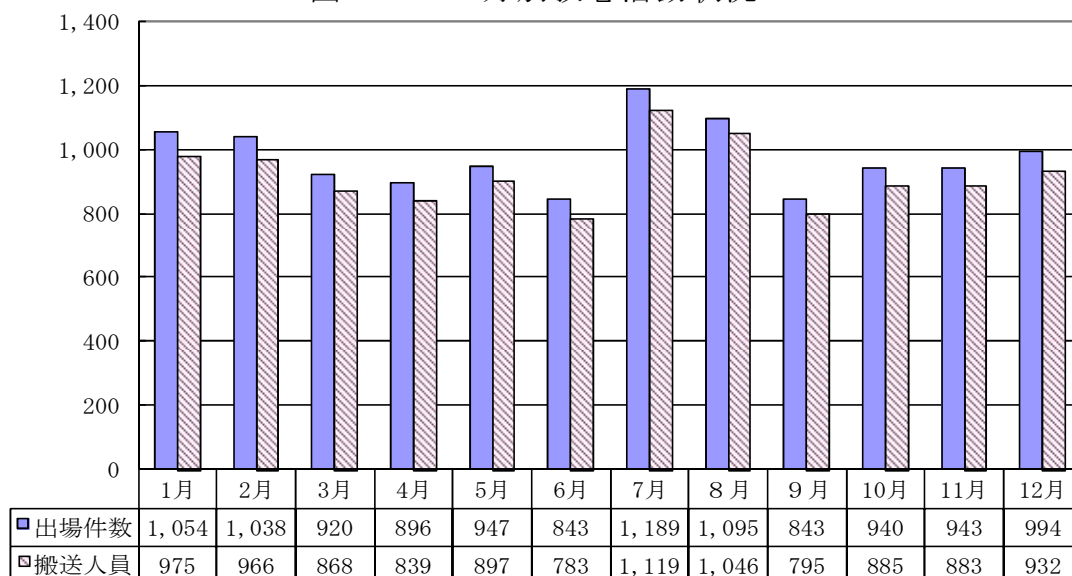
6 月別救急活動状況

月別の最多出動件数は、7月が1,189件(10.1%)、続いて8月の1,095件(9.3%)、1月1,054件(9%)、2月1,038件(8.8%)となっています。

搬送人員は、7月が1,119人(10.1%)で最も多く、続いて8月の1,046人(9.5%)、1月975人(8.8%)、2月966人(8.7%)となっています。

(図Ⅱ-8参照)

図Ⅱ-8 月別救急活動状況

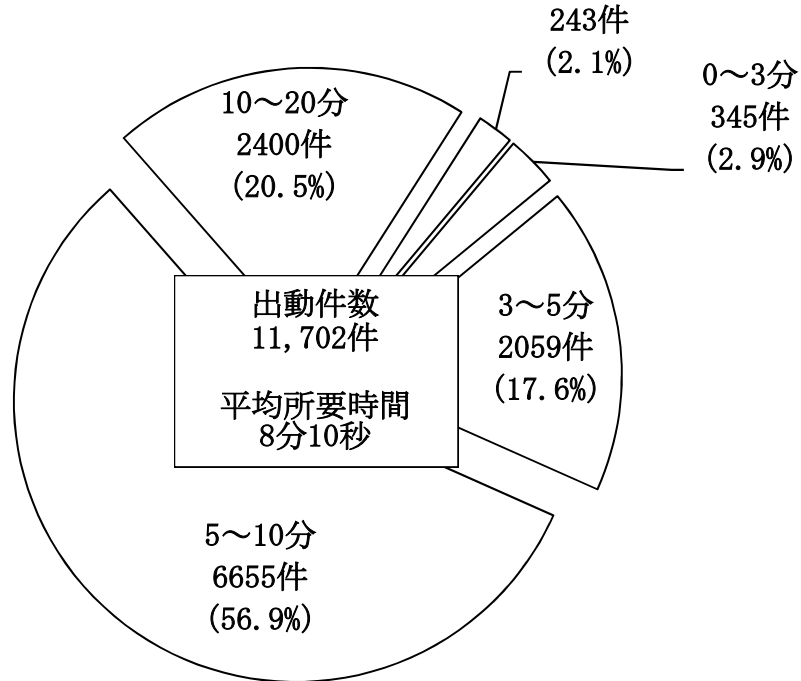


7 現場到着所要時間、収容所要時間

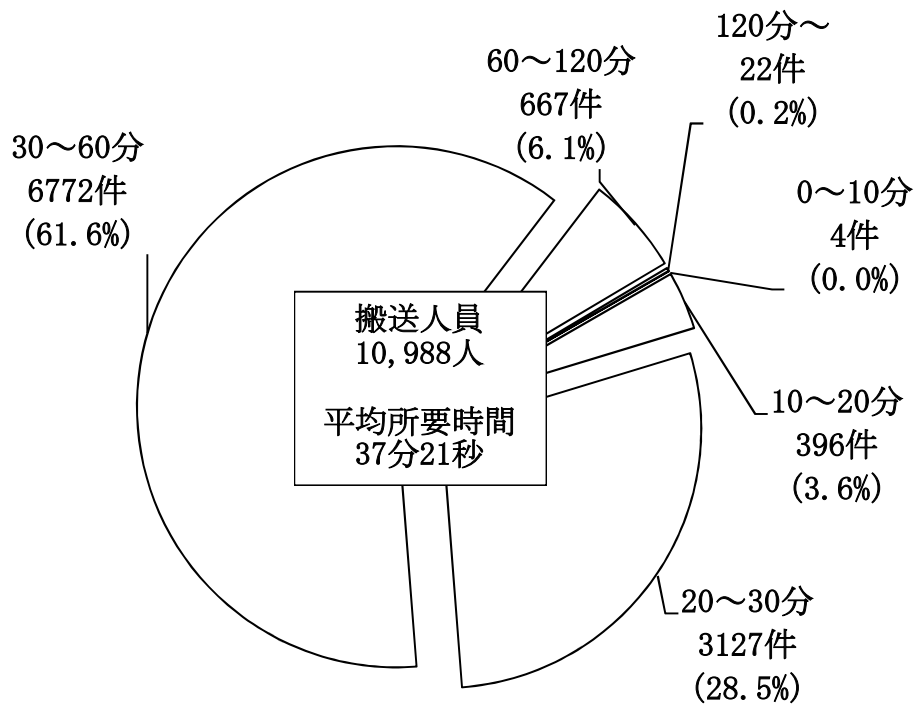
平均現場到着所要時間は8分10秒で昨年より6秒増加し、平均収容所要時間は37分21秒で前年より12秒増加しました。

(図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

図Ⅱ-9 現場到着所要時間



図Ⅱ-10 収容所要時間



8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者 260 人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、128 人（49.2%）でした。（図 II-11 参照）

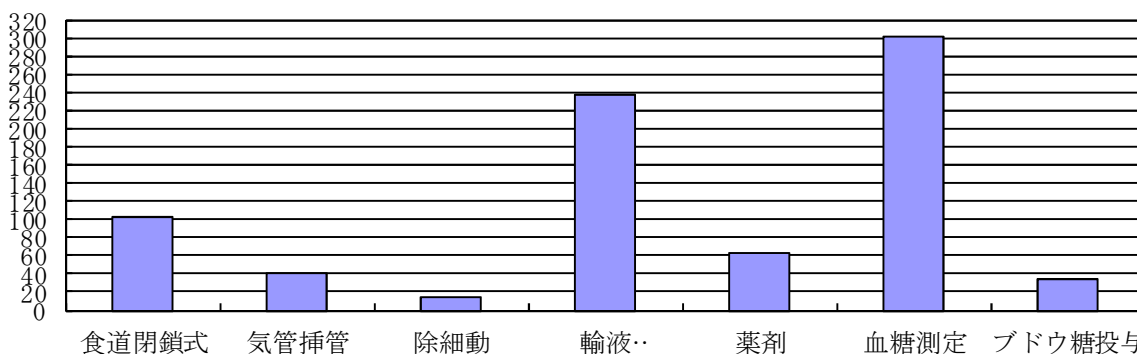
図 II-11 応急手当実施状況



9 高度救命処置状況

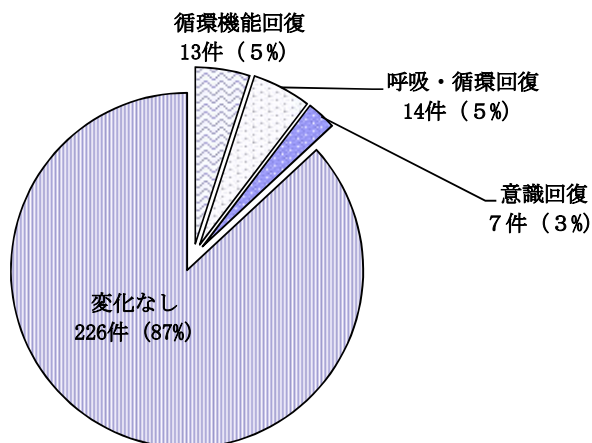
心肺停止傷病者 260 人のうち救急救命士の高度救命処置により、34 人が回復されました。（図 II-12、II-13 参照）

図 II-12 高度救命処置件数



処置項目	食道閉鎖式	気管挿管	除細動	輸液 (CPA前輸液 含む)	薬剤	血糖測定	ブドウ糖投与
実施件数	103	41	14	238	64	302	35

図 II-13 医師引き継ぎ時の状況

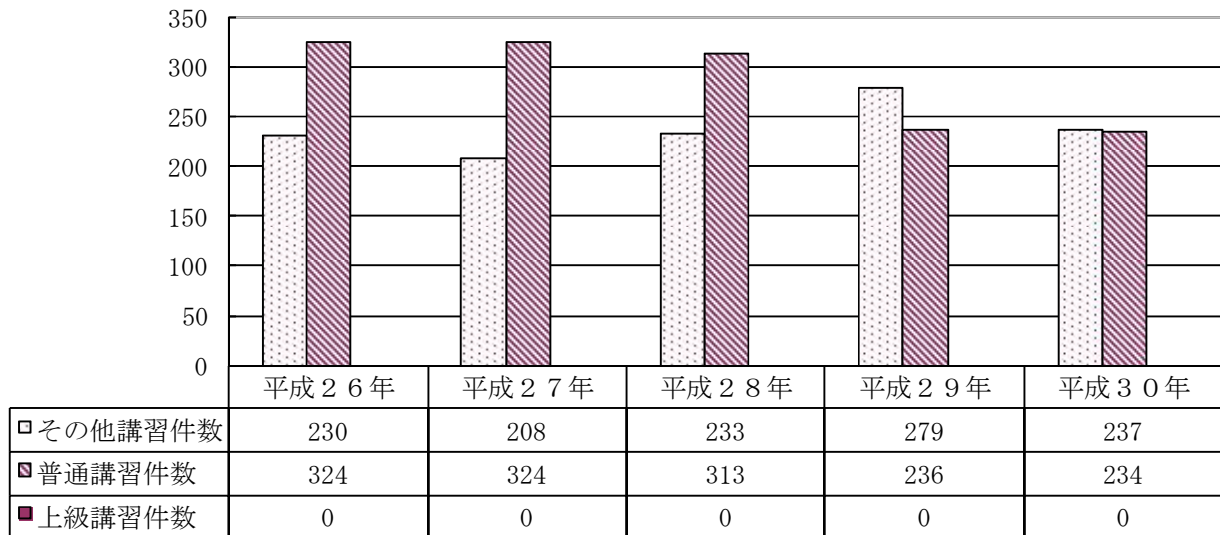


10 救急講習件数の推移

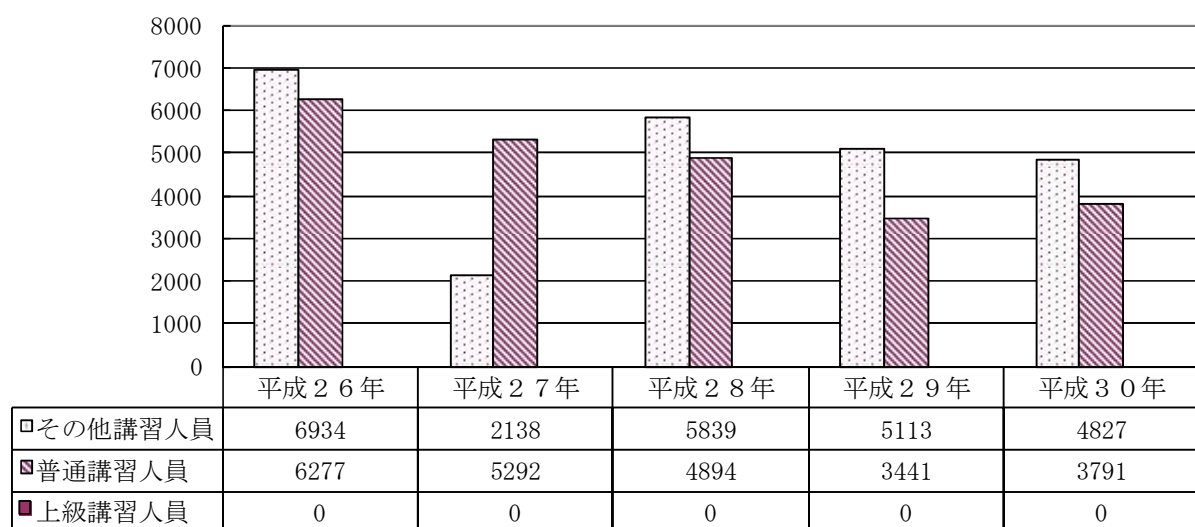
救急講習は毎年500件程度の依頼があり、圏域住民9,000人が受講され、応急手当に対する意識の高さがうかがえます。

(図Ⅱ-14、Ⅱ-15参照)

図Ⅱ-14 過去5年間の救急講習件数推移



図Ⅱ-15 過去5年間の救急講習人員推移



11 市町村別救急活動の推移です。過去 5 年間の救急件数の推移を見取ることができます。
 (表Ⅱ－1 参照)

表Ⅱ－1 過去5年間の市町村別救急件数

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
米子市	件数	6,088	6,300	6,628	6,713	7,332
	搬送人員	5,645	5,919	6,263	6,277	6,837
境港市	件数	1,329	1,522	1,450	1,501	1,572
	搬送人員	1,265	1,451	1,389	1,428	1,493
日吉津村	件数	152	128	145	178	173
	搬送人員	139	126	144	173	165
大山町	件数	799	742	783	842	885
	搬送人員	736	697	746	790	834
南部町	件数	384	388	369	394	446
	搬送人員	360	366	352	379	432
伯耆町	件数	441	518	525	548	504
	搬送人員	410	498	502	520	478
日南町	件数	346	345	327	336	324
	搬送人員	327	323	307	317	309
日野町	件数	223	184	191	192	209
	搬送人員	217	175	184	176	190
江府町	件数	229	197	223	245	238
	搬送人員	222	188	213	234	232
圏域外	件数	45	39	13	12	19
	搬送人員	40	29	9	11	18
合計	件数	10,036	10,363	10,654	10,961	11,702
	搬送人員	9,361	9,772	10,109	10,305	10,988

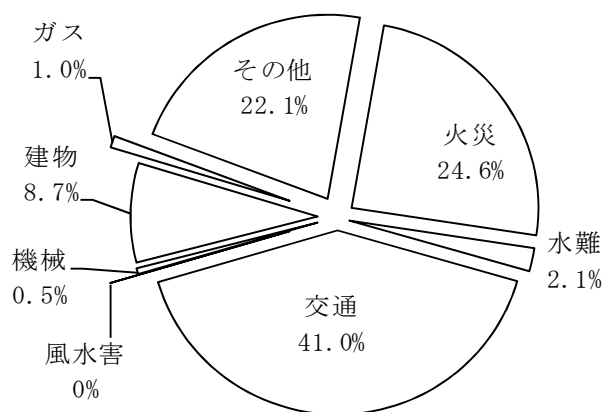
Ⅲ 救助概況

(平成30年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は195件あり、そのうち交通事故が80件(41.0%)、火災が48件(24.6%)、その他の事故が43件(22.1%)、建物等による事故が17件(8.7%)、水難事故が4件(2.1%)、ガス・酸欠事故が2件(1.0%)、機械による事故が1件(0.5%)の順となっています。(図Ⅲ-1参照)

図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況

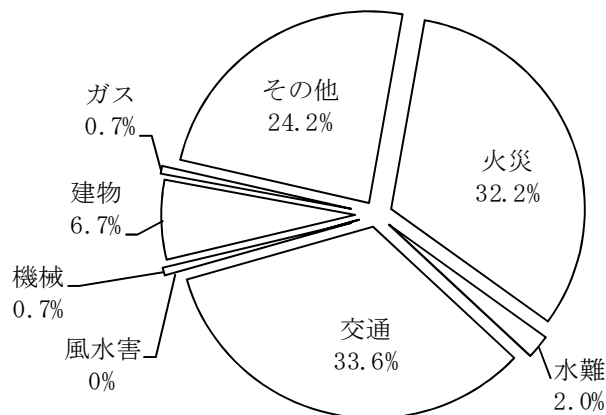


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	48	4	80	0	1	17	2	0	43	195

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は149件あり、そのうち交通事故が50件(33.6%)、火災が48件(32.2%)、その他の事故が36件(24.2%)、建物等による事故10件(6.7%)、水難事故が3件(2.0%)、ガス・酸欠事故が1件(0.7%)、機械による事故1件(0.7%)の順となっています。(図Ⅲ-2参照)

図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況

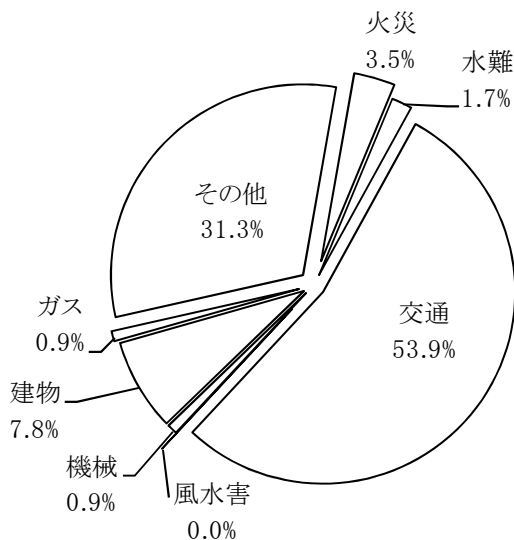


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	48	3	50	0	1	10	1	0	36	149

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は115人であり、そのうち交通事故が62人（53.9%）と最も多く、次いでその他の事故が36人（31.3%）、建物等による事故9人（7.8%）、火災が4人（3.5%）、水難事故が2人（1.7%）、ガス・酸欠事故が1人（0.9%）、機械による事故が1人（0.9%）、の順となっています。（図Ⅲ－3参照）

図Ⅲ－3 事故種別救助人員状況



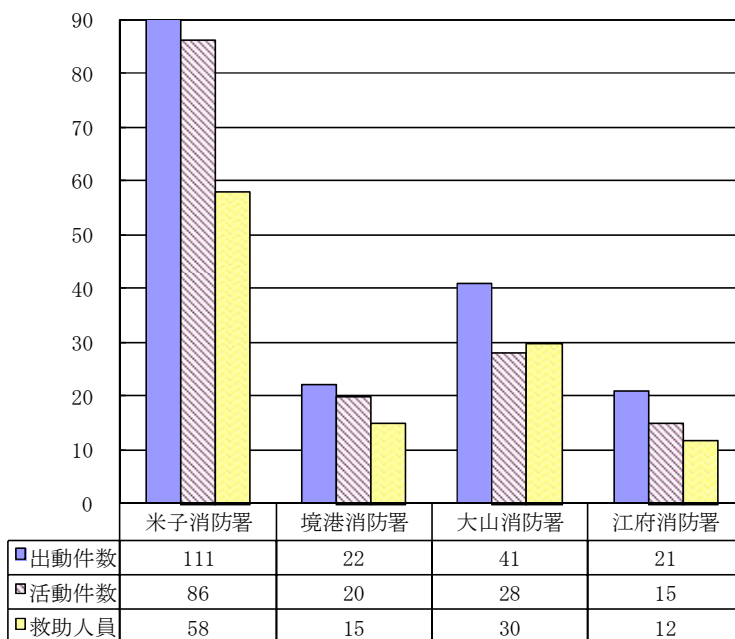
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	4	2	62	0	1	9	1	0	36	115

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が111件（56.9%）と最も多く、次いで大山消防署が41件（21.0%）、境港消防署が22件（11.3%）、江府消防署が21件（10.8%）の順となっています。

（図Ⅲ－4参照）

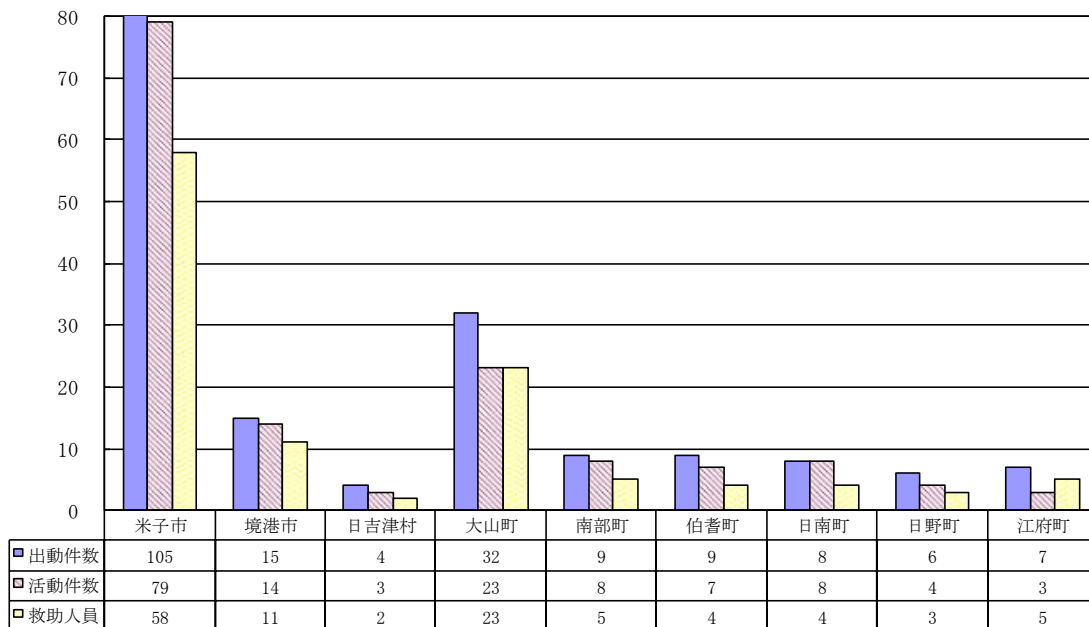
図Ⅲ－4 管轄別救助活動状況



5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較してみると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数105件（53.8%）、次いで大山町が32件（16.4%）、境港市が15件（7.7%）、南部町が9件（4.6%）等の順となっております。（図Ⅲ—5参照）

図Ⅲ—5 市町村別救助活動状況



6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、3月が22件（11.3%）と最も多く、次いで4月と7月が20件（10.3%）、5月が19件（9.7%）、1月が17件（8.7%）等の順となっています。（図Ⅲ—6参照）

図Ⅲ—6 月別救助活動状況

